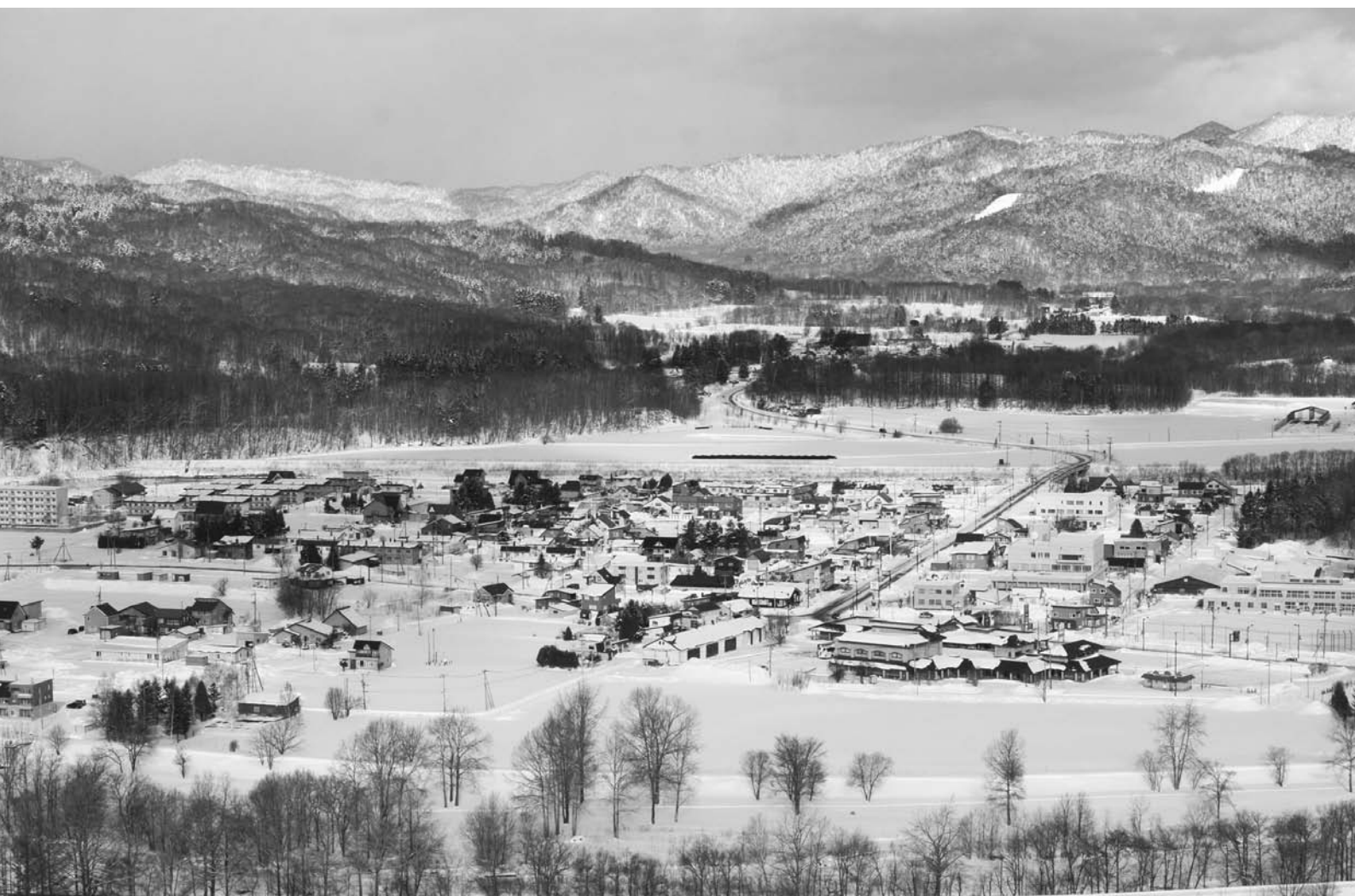


とちぎ 議会広報

平成30年2月発行



国設占冠中央スキー場から中央市街地をのぞむ（平成30年元旦）

No.
152

- 決算特別委員会
- 第7回 定例会

各会計補正予算・条例改正など

〈一般質問〉5議員

平和体験学習希望者全員派遣／早期避難路の建設
トマム地区に交番設置要望／最終処分場の今後
森林施策への提言

- 第6回 臨時会
- 総務産業常任委員会報告

決算特別委員会

〔平成29年10月25日・26日〕

認定すべきと決定



五十嵐正雄委員長

平成28年度の決算を審査

第5回議会定例会において付託された認定第1号「平成28年度一般会計及び各特別会計決算について」は、10月25日と26日の審査結果により認定すべきものと決定されました。第7回議会定例会で五十嵐委員長から報告され、本会議において、委員長報告のとおり認定されました。

なお、監査委員より審査意見の報告がありました。

○監査委員審査意見（抜粋）

村の基金（貯金）総額は15億1344万円となりました。

今後の村政執行にあたり、住民がいつでも安心してこの村に暮らしていける、行政サービスを提供し、健全な財政運営に努められるよう強く期待します。

平成28年度 各会計決算状況

【万単位以下切り捨て】

会 計 別		歳 入 額	歳 出 額	差 引 金 額
一 般 会 計		27億2134万円	26億5775万円	6359万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	1億7857万円	1億7576万円	281万円
	村 立 診 療 所	8155万円	7828万円	327万円
	簡 易 水 道	1億8409万円	1億8228万円	181万円
	公 共 下 水 道	9815万円	9552万円	263万円
	介 護 保 険	9602万円	9055万円	547万円
	後 期 高 齢 者	1697万円	1645万円	52万円
	歯 科 診 療 所	2160万円	1980万円	180万円
合 計		33億9829万円	33億1639万円	8190万円

質疑

〔一般会計〕 （歳入）

問 特別会計への繰出金関係、自主財源の関係、基金残高と起債の借入関係について説明願います。

（長谷川委員）

多田総務課長 繰出金が多いという指摘ですが、住民サービスを下下させないための措置です。次に経常収支比率の関係ですが、大きくは交付税の減額分と災害等の対処による基金の減少によります。

また、基金残高と起債借入高は、交付税措置のある有利な起債へ借り換え対処にて健全化対策をしています。

問 不納欠損額と収入未済額の関係で奨学資金、軽自動車税の未収額、ふるさと寄附金の今後の推移を伺います。

（長谷川委員）

岡崎教育次長 奨学資金について、現年度収入未済額は減っていますが、滞納繰越分が若干増えている状況です。原因は滞納者の固定化で、弁護士対応でも成果が得られていません。滞納解消に向けて本人・保証人に対して、積極的に働きかけます。

多田課長

固定資産税の不納欠損額の状況は、現年度で6件、滞納繰越で223件あり、時効消滅が200件ほどあります。

また、軽自動車税の未収入額は、1件で鋭意努力中です。

三浦企画商工課長

ふるさと寄附金の今後の見通しは、返礼品の金額は3割上限との報道を遵守する考えです。対応策として体験型メニュー等を加え占冠村らしい魅力あるメニューを考えたいです。

問 畜産・農業振興基金繰入金の減額内容を伺います。

（長谷川委員）

小林産業建設課長 どちらも実績額に基づき減額しました。

（歳出）

問 不用額が6694万円残っています。過去2年間も同様で大体6千万円の不用額が出る理由を伺います。

（長谷川委員）

多田課長 不用額については、過去3年で当初予算に係わらず6千万円ほどあります。今後は多額な不用額とならないよう配慮し、職員に周知をしながら適正に執行していきます。

問 総務費の一般管理費で職員研修の実績を伺います。

(長谷川委員)

多田課長 職員の政策能力等の向上を図る目的で14名が受講しています。また、人事評価研修は講師を外部委託して、職員及び管理職が研修を行っています。

問 企画費の1311万円の不用額の内容を伺います。

また、賃金の1137万円は地域おこし協力隊の経費と思われませんが所属人数を伺います。

(長谷川委員)

三浦課長 不用額の内容は、自治体情報システムネットワークの強靱化による繰越明許費です。また、地域おこし協力隊は企画に4人、林務に4人所属しています。

問 広域連合の負担金が増額した理由を伺います。

(長谷川委員)

多田課長 串内草地組合の台風災害の復旧経費増加と消防費は積載車の新規購入によるものです。

問 支所費の公園の基本計画内容をお伺いします。

(長谷川委員)

平川トマム支所長 昨年度策定した基本計画を参考に現地を確認し、住民との意見交換をして

行政との役割分担を行い、来年度予算で検討します。



第2回住民ワークショップの様子

問 環境衛生費の原材料費で支出なしの要因を伺います。

(大谷委員)

小林産業建設課長 当初予算にて切込砕石経費を計上していましたが、使用用途がなかったため減額しました。

問 商工費の補助及び交付金の不用額175万円は、プレミアム商品券、夏の商品券の補助だと思えますが、村民への販売が十分ではない実態ですの内訳をお伺いします。

(大谷委員)

三浦課長 プレミアム商品券は、春に1222セット、冬に1128セットをそれぞれ完売

しました。不用額は、地域企業振興条例の人材育成関係の補助金です。

問 林業振興費の委託料5002万円の内訳を伺います。

(佐野委員)

今野林業振興室長 現在、林道開設工事を施工しており、設計測量業務2件、林道作業道草刈1件、狩猟価値発現の林業六次産業化で2件、メープルシロップの生産が2件、木炭製造、ジビエ工場の清掃、消防設備点検の内容です。



大人気のメープルシロップ

問 メープルシロップ2件の金額と委託金の内訳を伺います。

(佐野委員)

今野室長 総事業費で約690万円。その内国費として505万円交付されております。

【特別会計】

《国保会計》

問 老人保健拠出金で6万円予算化されており、医療費拠出金、事業費拠出金が支出なしで事務費拠出金だけが565円の支出の理由を伺います。

(大谷委員)

伊藤保健福祉課長 老人保健拠出金は、老人保健制度に基づいて一定期間予算計上しないとの国の指導があり、今般は事務費のみの支出となりました。

問 収納関係について国保会計、水道会計、下水道会計、介護会計の不納欠損額、収入未済額の対処策を伺います。

(長谷川委員)

多田課長 国保税の不納欠損は、現年度課税分18件で88万円、滞納繰越分で19件71万円です。件数は前年度より減っていますが、金額は税率改正で増加しています。

滞納者への督促は、本人が死亡しているケースや預金の差し押さえができないケース等で時効を迎える場合があります。

小林課長 水道会計、下水道会計の収入未済額、滞納者対策は、督促状送付、電話催告、訪問徴収を実施しています。今後は多額の滞納者には、納付相談を行い収納率の向上に努めます。

問 国保会計の一般療養給付費と高額療養費の増加理由を伺います。

(長谷川委員)

伊藤課長 加入者の増や医療の進歩、新技術の導入等により増加しました。

問 後期高齢者支援金と共同事業拠出金の減額理由を伺います。

(長谷川委員)

伊藤課長 後期高齢者支援金等の減額要因は、支援金の額の確定による減額です。

《介護保険会計》

問 介護保険料の不納欠損額が増えている状況です。時効消滅の2年間の迎えるまでの対策をお伺いします。

(長谷川委員)

伊藤課長 不納欠損の件数は3件あり、同一の人です。今後督促状の送付、電話、自宅訪問で納付をお願いしていきます。

第7回 定例会

平和の村基金 むらびと基金を創設

平成29年第7回定例会は、12月14日・15日の2日間開催され、条例の一部改正や各会
計補正予算などの審議が行われ、すべて原案どおり可決しました。また、5議員が一般
質問で政策論議を展開しました。
(傍聴 14日26人 15日0人)

条例の改正

●人事院勧告に基づく議員・特
別職・教育長・職員の給与等
の条例の一部改正(3件)

●占冠村特定教育・保育施設及
び特定地域型保育事業の運営
に関する基準を定める条例の
一部改正

●占冠村土地改良事業経費の賦
課徴収に関する条例の一部改正

●宮下国道併設道路の認定

【質疑】

問 村道認定する経緯について
伺います。
(山本議員)

小林産業建設課長

平成26年に
旭川開発建設部から宮下国道併
設道路を無償譲渡したい旨の申
し出があり、用地の確定が平成
29年に行われたためです。

【質疑】

●資金積立基金条例の一部改正

問 設立する趣旨と基金の規模
を伺います。
(山本議員)

多田総務課長

平和の村基金に
ついては、特定寄附があったこ
とから創設し、平和体験学習に
生徒が全員行けるような財源と
して活用します。

むらびと基金については、ふ
るさと納税寄附金の振り分けで
指定がない寄附を使用し、財源
のない地方創生、人づくり、コ
ミュニティづくりについて住民
活動の推進事業、公設塾などの
事業の財源として活用します。
積立の規模は、当初、平和の
村基金については100万円程
度、その他については300万
円程度を想定しています。

●占冠村国民健康保険条例の一
部改正

【質疑】

問 出産育児一時金支給額を40
万4千円にする理由と、ただし
書の3万円は何を意味していま
すか。1万6千円減額の理由を
伺います。
(大谷議員)

伊藤保健福祉課長

条例改正を
しても、支給額はこれまでどお

り42万円です。医療機関に支払
う費用40万4千円と出産による
後遺症に対する産科医療補償制
度の掛金相当額1万6千円につ
いて、これまで本村では条例で
合算した金額を出産育児一時金
としていましたが、産科医療補
償制度に未加入の分娩機関での
出産には掛金相当額を支給しな
いため、明文化するために今回
条例改正を行います。

また、加算額の3万円を上限
にしている理由は、産科医療補
償制度の掛金の変動を想定し、
幅を持たせているためです。

平成29年度補正予算

【質疑】

【一般会計】

問 総務管理費の総合センター
管理費修繕料37万円の内容を伺
います。
(山本議員)

多田課長

総合センターの非常
用照明のバッテリー交換、商工
会、村長室の老朽化したカーテ
ン、ブラインドの交換費用です。

問 旅客自動車の運送事業費の
修繕料95万円の内容を伺います。
(山本議員)

小林課長

村営バスの修繕料で
す。富良野線で60万円、トマム
線で35万円を計上しています。
内容はスプリングの交換、ヒー
ターポンプの取替え、オルタ
ネーターのベルトダンパーの交
換等を予定しています。

問 最終処分場の覆土作業の委
託料39万9千円の減額理由を伺
います。
(山本議員)

小林課長

第1工区の閉鎖に向
けて最終覆土の予算措置をして
いましたが、ごみ減量化推進委
員会で最終処分場について議論
しており、結論が年度末という
ことから今年度はこの業務を見
合わせました。

問 住宅管理費の修繕料500
万円増の内容を伺います。

小林課長

第2トマム団地の1
棟4戸を11月末で用途廃止し
て、村有住宅にしています。そ
の修繕費として浴室の改修、ポ
イラーの設置、それに伴う配管
費用を計上しています。

問 公園費の需要費50万円増の

第7回 定例会

平成29年度 補正予算 ～ 第7回定例会 ～	
簡易水道（第4号）	50万円増
総額 1億1040万円⇒1億1090万円	
平成29年度 補正予算 ～ 第6回臨時会 ～	

内容を伺います。（山本議員）

小林課長 日勝峠の通行止めに伴う道東自動車道の無料化により利用者が増加していた農村公園のトイレの消耗品及び光熱費の増です。

問 児童福祉総務費の賃金、保育所費臨時雇上賃金の減について、雇上ができなかったのか、事情を伺います。（山本議員）

伊藤課長 児童福祉総務費の賃金110万円の減額は対象児童がいない時には行わないことがあり、回数・時間の減によるものと、社会保険の適用の制度の変更により勤務時間が抑制されたためです。

保育所費の臨時雇上賃金の170万円の減については、臨時職員で対応できているため減額しています。

問 予防費の検診委託料が合わせて110万円の減になっていますが、受診率は下がっているのか伺います。（山本議員）

伊藤課長 検診について、昨年度よりも受診率が下がっており、胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診は昨年よりも下がっている状況です。また、健診についても昨年度は約57%だったものが43.9%と下がっている状況です。



五十嵐正雄議員

平和体験学習 希望者全員派遣

1 広島平和体験学習は 希望者全員の派遣を

問 平和の村宣言の具体的取組として実施されてきた広島平和体験学習は、今年で32回目となりました。本村の中学2年生4人と引率者2人が派遣され、過去の戦争の悲劇を自らの目と耳で学んできました。

財政的なこともあり希望した生徒1人が抽選に漏れ、参加することができませんでした。村内の生徒も減少してきており、今後は希望者全員が参加できるように取り組んでいくことが平和の村宣言の具体化であり、必要と考えますが村長の考えを伺います。

田中村長 広島平和体験学習については、昭和60年3月に平和の村宣言を採択して以来、村内中学生に対して事業支援を行ってきました。平和体験学習及び報告会を開催するなど平和の村宣言に相応した事業として占冠村むらびと条例の基本方針としてもうたわれ、村民の皆様にも事業の重要性を認識していただいています。

この度、平和体験学習のための特定寄附があり、今議会で平和の村基金の創設を提案予定で

す。今後においては、事業実施団体と協議を行うとともに、当該基金を活用し、基本的には希望者全員が参加できるよう支援を行います。

問 この派遣事業は、占冠村教育を語る住民会議が具体的に取組んでいきます。参加者の確定や旅行会社代理店への予約等例年大変なことと伺っています。できるだけ早く村の意向を伝えて、早めに準備ができるような体制を確立してほしいと考えます。村長の考えを伺います。

田中村長 参加希望者が全員行けるように教育を語る住民会議と協議し、予算付けをします。

2 新規就農の取組み

問 新規就農の取組みについては今日までなかなか成果を上げることができていません。総務産業常任委員会で問題点を整理して、議会としての意見を村に提出してきました。新年度に向けた具体的取組みが内部で議論されているのか伺います。

田中村長 村として草地整備の可能性について協議を進めるとともに、新規就農希望者の農業実習に係る実習プログラムを

作成し、新規就農希望者の目指す必要な知識、技能の習得に向けて実習を行えるプログラムを用意してきています。

今後においても農業委員会と連携した新規就農者に対する農地の提供、きめ細やかな対応窓口の体制整備を進め、新規就農希望者が安心して就農できる体制を整えていきます。

問 村も議会も新規就農対策については共通認識に立っていますが、議会が提起した問題点を再度内部で十分に議論しながら取り組んでいく必要があると思います。村長の決意を伺います。

田中村長 今後の受け入れにあたっては、支援事業が終了した後に新規就農者がきちんと自立できる見通しが立つことを確認した上で行っていくべきであると考えます。そのために大切なのが農地と住宅の確保だと考えております。就農希望者本人はもちろん、農業委員会や新規就農支援協議会と協議を行い、受け入れにあたっての事前準備に万全を期します。

問 村内では、農業に従事しようとする人たちが数名出てきております。今までにない歓迎す

べき動きです。この機会を逃すことなく村として新たな就農支援策を進める必要があると思いますが、村長の考えを伺います。

田中村長 農業の担い手不足や高齢化による農業者人口の減少が課題である占冠村において、新たな農業者が増えることは大変喜ばしいことであり、村としても最大限の支援を行うべきと考えています。占冠村新規就農者支援対策事業、占冠村農業振興事業補助などの現行の支援事業や補助制度をフル活用して支援を行いたいと考えています。

問 既存の施策・政策ではなく新たな施策を行って、定住化を図っていくことが村としての役目、だと思いますが、村長の決意を伺います。

田中村長 村としてUターン者用の研修プログラムも検討していきたいと思いますが、農家個々の事情も違うことからきめ細かな聞き取りを行い支援していきます。



佐野一紀議員

早期避難路の建設

1 避難路の新設

問 村道1号線に接続する避難路の新設について安全勾配5%に設定した根拠は何か伺います。

田中村長 道路構造令の規定により設定速度20kmの普通道路の上限勾配は9%になっていますが、5%を超えるものについては登坂車線を設けることになっており、登坂車線の必要としない限度の5%を設計値としました。

問 議会が示したルート設定と乖離があります。山裾を巻いて上るルートでの勾配7%は想定しなかったのか伺います。

田中村長 その後の道路管理や除雪状況を考えて縦断勾配5%で設定しています。議会が示している川側の山裾を巻いて登るルートは危険性があると判断しました。

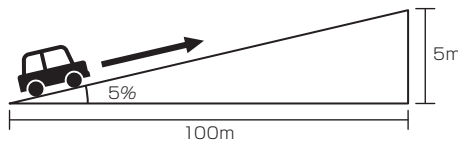
2 重点的巡視点検が必要な箇所

問 鵜川・沙流川減災対策協議会に今回、過去の出水の教訓か



議会が提案する避難路のルート

※勾配とは、水平面に対する傾きの程度のこと。
【右図】縦断勾配5%の例



問 耐用年限二分の一を経過した住宅数、耐用年限を経過した住宅数は何戸か伺います。
年数の平準化を図りながら修繕対応を、修繕対応できなければ更新しなければと考えますが、伺います。

3 公住対策は

田中村長 重要水防箇所とは、洪水時危険が予想され、重点的に巡視点検が必要な箇所です。占冠は鵜川水系3箇所が指定されています。
場所については、上トマム18線橋から上流へ1.9kmまで、中央地区は青巖大橋から千歳橋にかけて上流1.3km、合わせて3.2kmとなっています。双珠別川は鵜川の合流点から上流1.3kmまで。パンケシユル川は占冠更正橋から上流0.4kmにかけてです。

田中村長 耐用年限について、二分の一を経過したものは156戸、耐用年限を経過した戸数は100戸です。
各地区の公住において経年劣化が進んでいますので、住生活基本計画に沿って修繕が更新か決定することになっています。

田中村長 宮下B団地は住宅変更が可能であれば除去の予定で取り進めていきたいと思っています。
今後は新耐震基準を満たしていない住宅は用途廃止し、地域的に住宅を確保すべき村営住宅については建て替える計画です。財政状況等により計画に変更がありますが、ご理解いただきたいと思っています。

問 宮下B団地は昭和46年に建築され、耐用年数は30年です。除去して取り壊す旨を丁寧の説明し、他地区の公住を進めてはと思っています。
また、宮下の2階建ての職員住宅、千歳地区の消防職員住宅は劣化が激しく、更新等緊急な対策が必要ですが、村長の考えを伺います。

田中村長 耐用年限については、二分の一を経過したものは156戸、耐用年限を経過した戸数は100戸です。
各地区の公住において経年劣化が進んでいますので、住生活基本計画に沿って修繕が更新か決定することになっています。

トマム地区に 交番設置要望



工藤國忠議員

1 トマム地区 住宅災害対策

問 トマム支所裏の民有地が昨年8月末の台風により大きな被害を受けました。一昨年まで山林となっていた土地が今は木も伐採され、荒れ放題になっています。このままでは昨年のような大雨が来ますと大災害になると思います。村は何か対策を考えているのか伺います。



民有林の伐採跡地現場

田中村長 議員ご指摘の民有地の伐採状況については本年夏に確認をしています。現地の傾斜は15度以下であり、笹の地下茎もしっかり張っており、地滑り等の危険要因は確認されませんでした。

しかし、昨年の台風10号の影響

響による豪雨を考えると、地域住民の皆様の不安は尽きないと感じています。民有地については土石流の危険箇所指定されていますが、想定外の事態に備え、職員による状況確認を継続するとともに村有地の部分についても法面の土留めを行うなど安全対策を講じ、住民の皆様の安全を確保していきたいと思っています。

2 上トマム地区に 交番の設置を

問 トマムは今、クラブメッドのベッド数が約1000とも言われています。それと併せて従業員約300人収容の宿舎が建設されています。

交通安全、事故防止、事件の対応など外国人旅行客の多様化の中で、特に冬期間の移動時間・出勤件数などを考慮し、上トマム地区に交番を設置して欲しいとの要望があります。住民の安心安全のため村は各関係機関に強く働きかけをする必要があると思いますが、村長の考えを伺います。

田中村長 現在クラブメッドの開業で300人もの新たな住民登録など好調なトマムリゾートの運営に伴い、中

トマム地区から上トマム地区における滞在人口が増加しています。

このような状況の中で、事故防止や地域の安全対策の必要性も高まるものと考えます。新たに交番が設置されれば事故対応、犯罪防止などに大きな効果が期待されていることはもちろん、定住人口の増加にも寄与することが予想されます。

村としても交番を設置するための要件等について調査し、設置の可能性があれば積極的に北海道、北海道警察等に直接訪問し、要望活動等を行いたいと考えています。



占冠駐在所(平成28年3月竣工)

議会はどこでも気軽に傍聴することができます

傍聴するのに特別な服装や準備は必要ありません。途中入場や途中退場も自由です。傍聴人は自由に写真やビデオを撮ったり、録音することができます。議場は総合センター(役場庁舎)3階です。お気軽においでください。

今後の
予定

3月定例会→3月8日(木)・9日(金)・12日(月)・14日(水)
予算特別委員会→3月13日(火)

※いずれも午前10:00開会 ※議事内容等により、日程が変更する場合があります。





大谷元江議員

最終処分場の今後

1 福祉灯油の支給

問 低所得者を対象に支給されている福祉灯油ですが、5年程同じ金額で支給されています。灯油の金額は一時よりは下がっていますが、再度値上がりしつつあります。少しでも増額して支給しないのか伺います。

田中村長 福祉灯油の支給事業は低所得者の高齢者世帯、障がい者及びひとり親家庭に対して、冬期間における生活の安定と福祉の増進を図ることを目的としています。今年度は想定外の大幅な価格高騰がない限り、昨年同様の1万8千円の支給と考えています。

問 物価は高騰しつつあるので再度検討して欲しいと思います。また、支給については申請という方法です。対象者が把握できるのであれば、申請なしに支給するべきと考えますが、村長の考えを伺います。

田中村長 福祉灯油の支給に關しては、地域づくり総合交付金を活用しています。対象者全員に案内し、全員が支給を受けている実績になっています。

2 双珠別川の土砂堆積除去の進捗状況

問 一昨年・昨年と前村長の時から土砂除去の要望をしていますが。昨年は調査が行われたと聞いていますが、その後はどのような状況になっているのか伺います。

田中村長 要望を受け、旭川土木現業所富良野出張所で測量調査と土砂除去の予算要求をしています。要望しているところだけ除去しても効果がなく、国道237号線の下流部から上流部にかけて順を追って行う必要があります。長い距離になることから予算措置も難しくなっている状況です。しかし、道からも実施に向けて引き続き予算措置に努力するとの話がありましたので今後も要望を継続していきます。

3 最終処分場の今後

問 村の最終処分場の残余容量が2年から5年しかもたないと言われていますが、村として延命措置をしていくのか、新設していくのか伺います。

また、ごみ減量化対策委員会が設置されており、数回会議が

開催されています。その会議録では占冠の人口1200人で5年ではもつだろうと記載されていましたが、トマムリゾートの利用を除いて処分場の維持計算はできないと思います。村としてどのような考え方で進めていくのか伺います。

田中村長 現在、ごみ減量化対策委員会の中で今後の最終処分場のあり方について、延命か新設か。新設する場合の立地選定や処分場に係る経費や効果的な施設利用など検討をしています。年度内に結論を出せるように進めています。

問 年度内に結論を出すということですが、新設の方向になっても使用可能になるまでには時間が必要です。現在の処分場も1年でも延命させるために住民も徹底した減量に取り組まなければいけないし、リゾート側の企業にも協力してもらわなければなりません。

いまだ生ゴミには調理器具等が混入している一つずつ確認しながら回収していると聞いています。減量と分別の周知を村民及び企業に対して行うのか考え方を伺います。

田中村長 施設の延命化の方

法には、かさ上げ・掘り起しなどがありますが、搬入されるゴミの組成調査をしたところ、家庭ゴミ・事業系ゴミを問わず分別が徹底されていないのが実情です。広報等で再度分別の周知・徹底を呼び掛けていきます。

また、一般ゴミだけ無料であることが要因とも考えられますので「有料化」についても委員会で検討しているところです。

問 広報等の文面での周知では分別の徹底がされないと考えます。住民に対しても、事業者に対しても文面ではなく会って説明していく必要があるのではないかと考えますが伺います。

田中村長 周知徹底につきましては不十分だろうと考えています。あらゆる場面においてゴミ分別の徹底を図っていきます。併せて事業者については直接ゴミ処理・分別について指導していきます。



異物混入(ナイフ)で大迷惑

森林施策への提言



長谷川耿聰議員

1 森林施策への提言

問 村の産業振興は林業を抜きにして語れないと思います。薪生産・メープルシロップがもたらす効果と今後の進展について伺います。

田中村長 薪生産は当初生産量の約1.7倍、雇用においても正社員2名、臨時職員として実人数で5名を雇用しています。メープルシロップ生産は百分の一の製造効率が六十分の一となりました。木炭製造も伝統的な技術の継承、村民の需要に即することを目的として続けていきたいと思っています。

問 これらが企業として成り立つ事業であるかということ伺います。

田中村長 それぞれ需要拡大を図りながら採算が取れる事業として進歩していただければと思います。

問 助成金のあるうちはできるが、助成金がなくなったらできないという助成金頼みの状況だと思います。事業の進退についての考えを伺います。

田中村長 事業として駄目で

あればそういう判断もしなければなりません。事業者とも十分協議しながら採算の取れる事業となるように村も努力していきたいと考えています。

問 提案したいのは漢方薬の材料となる薬木の植栽を進めてはいかかということですか。俗にシコロと言われているキハダの木は胃腸薬に、ホオノキは利尿作用があり、漢方に利用されています。村長の考えを伺います。

田中村長 近隣自治体でキハダ・ホオノキを薬木として皆伐跡地に植栽する取組みが始まるとの報道がありましたので、その状況を参考に村として取組みが可能か判断してきたいと思っています。

2 集中改革プランの策定

問 『占冠村の自立を目指して』と題する集中改革プランは平成21年度末の終了後8割以上の地方自治体では更なる独自の計画や方針が作成されています。占冠村では今でもホームページに集中改革プランが掲載されたままで更なる方針は示されていない状況と聞かれます。

田中村長 補助費や普通建設事業費、ま

た物件費、補助費においても削減を目指したものが最近ではかなり上昇している現状です。村長は財政の新たな計画を立てる気があるかを伺います。

田中村長 集中改革プランは平成22年3月に終了しており、その後の取扱いについては各地方公共団体の自主的な取組みとされています。

本村では平成19年3月に作成した自立推進計画に基づいた行政改革及び行政運営を行ってきました。今後も平成30年度に策定される占冠村総合計画を基本として現在ある財政推計に基づいた財政運営を進めます。

問 財政推計では経常収支比率が高くなっていますが、このような状況で計画を立てられるのか伺います。

田中村長 計画では歳入については費目の最小値を当てていますし、歳出については厳密に財政推計を立てています。

問 年々上昇している補助費や建設事業費、人件費等を削減していかなければいずれ村の基金がなくなっていくと思います。財政再建が必要と考えますが、村長の考えを伺います。

田中村長 経費が上昇しているのは事実です。歳入があつての歳出です。からどういった方法で経費を減らせるのかやりくりしたいと思っています。

補助費では一番大きいのは広域連合、次に福祉協議会とか村内各種団体で医療補助を含めて補助関係の施設など様々あります。これらがもし落とせないとなれば事業をやめるとか、翌年度送りにするとか、工夫しなければならぬと思います。決算ベースで何とか釣り合いが取れるような財政運営を進めていきたいと考えています。

清流大学24人が傍聴

第7回定例会1日目(12月14日)は、清流大学のみなさん24人が傍聴されました。みなさん、真剣なまなざしで議論を見守られ、熱心にメモを取られる姿もありました。議員も大勢の視線を背中に受けての一般質問は緊張感があり、身が引き締まる思いでした。



総務産業常任委員会報告

村内所管事務調査

(10月20日)

調査は、村長、副村長、各担当者の同行により、現地で説明を受け実施しました。

①上トマム村道災害復旧工事状況調査

工事は予定どおり竣工されている。村道の縦排水は勾配が急なので、今後、集水桝を維持管理上設けることと、排水トラフの清掃を検討されたい。

②上トマムポンプ場状況調査

ポンプ場設備は適切に管理されている。今後も適正な管理を継続されたい。



上トマムポンプ場内で説明を受ける

③上トマム村有人工林の皆伐状況調査

施業要件として面積枠を設定して、適正な施工管理をしている。事業の継続性から優良広葉樹の保存に努められたい。

④中央災害用備蓄倉庫の内容点検

今後、計画的な備品の整備をし、災害時に備えた数量確保をされたい。

⑤二ニウキャンプ場水源資料説明

2戸の住民へは年間要される水源確保をし、安全な水と新たな水源の調査・検討を早急にされたい。

道内所管事務調査

(11月30日～12月1日)

○黒松内町ブナ林町おこし活用事例調査

①ブナ北限の里づくり

平成3年に町内国有林の約92haを自生北限天然記念物「歌才ブナ林」として、指定された。観光ツーリズム事業により、環境教育・自然体験のアイテムで町おこしを展開している。また、「日本で最も美しい村連合」への加盟をし、町内の景観に配慮している。

②有害鳥獣による被害対策

町内における鳥獣被害の現状は、近年、エゾシカ・アライグマ等が増加傾向にあり、その対処策に苦慮している。猟友会の地元メンバーは13人程で平均年齢が52歳、活動の主たるハンターは65歳以上の従事者による実績がほとんどである。新人ハンターの育成事業により、狩猟免許取得の助成策に取り組んでいる。

③ブナセンター資料館「国有林野との連携」

黒松内ブナ林再生プロジェクトの活動に関する協定書を未立木地の再生のため後志森林管理署と締結して、「国民参加の森林づくり」を実践している。また、自然体験のイベント・講座・環境教育等を年間通して展開している。

○伊達市道の駅(伊達市観光物産公社)観光物産館の運営状況

平成24年に道の駅だて歴史の杜を開設して、今年で6年目を迎える。運営状況は、初年度より売上額・入館者共に年々増加し、昨年度売上額は7億4100万円、入館者は140万人となり、全道一の道の駅集客実績となる。館内における販売品は多岐に及んでおり、農作物の大半が市内の83戸からなる農家の出品である。農作物の販売手数料は15%、加工品は20～30%となっている。冬期間を除いて4月から12月まで各種のイベント開催により集客力を高めている。



全道一の道の駅集客実績説明

活動報告

○行政視察(10月24日)

旭川市の林産試験場に行き、旭川市の林産試験場に行き、林業六次産業化の研修をしてきました。

○上川管内議員研修会

(10月24日)

上川管内町村議会議員約300名が参加し、鷹栖町のたかすメロディーホールで行われました。政治評論家の有馬晴海さんから「どうなる?今後の日本政治」と題して、また、上川教育局長の中島康則さんからは「教育の今日的課題について」と題した講演がありました。

○富良野沿線議員研修会

(10月30日)

富良野沿線5市町村の議員65名が参加し、富良野市の富良野文化会館で行われました。

北海道大学大学院工学研究院准教授の岸邦宏さんから「鉄道のあり方を地域で議論するための論点」と題した講演がありました。

議会の主なうごき

(平成29年9月定例会終了後から平成29年12月定例会まで)

- 9月27日～28日 第5回議会定例会(各議員)
- 28日(木) 広報特別委員会①(各委員)
- 10月 2日～3日 上川留萌女性議員研修会(上富良野町、大谷議員)
- 5日～6日 上川管内町村議会議長会議長研修会(中川町、議長他)
- 10日(火) 全員協議会(各議員)
- 11日(水) アспен中学生ウェルカムパーティー(副議長)
- 13日(金) 広報特別委員会②(各委員)
- 14日(土) トナム町内会防災訓練(副議長)
- 15日(日) 平成29年度占冠消防秋季演習(各議員)
- 18日(水) 富良野沿線定例議長会(南富良野町、議長他)
- 19日(木) アспен中学生サヨナラパーティー(副議長)
- 20日(金) 村内所管事務調査、トナムスタンド開所式(各議員)
- 23日(月) 広報特別委員会③(各委員)
- 24日(火) 上川管内町村議会議員研修会(鷹栖町、各議員)
- 25日～26日 決算特別委員会(各委員)
- 29日(日) 占冠中学校開校70周年記念式典、祝賀会(議長他)
- 30日(月) 富良野沿線市町村議会議員研修会(富良野市、各議員)
- 11月 1日(水) 南富良野町開基50周年記念式典(南富良野町・議長)
- 7日(火) 南富良野町議会酒井委員長来庁(正副議長)
- 8日(水) 第6回村議会臨時会(各議員)
- 13日(月) 冬の交通安全運動街頭啓発(旗の波運動)(各議員)
- 14日(火) J R 根室本線対策協議会検討会議中間報告(富良野市、議長)
- 19日～25日 第61回町村議会議長会全国大会(東京都、議長)
- 上川管内町村議会議長会現地研修会(鹿児島県、議長)
- 28日(火) トナムリゾート施設竣工現地視察(各議員)
- 30日(木) 道内所管事務調査(黒松内町、各議員)
- 12月 1日(金) 道内所管事務調査(伊達市、各議員)
- 12月 4日(月) 総務産業常任委員会、全員協議会(各委員)
- 6日(水) 議会運営委員会(各委員)

編集後記

近年公園で小さなお子さんが親子で遊ぶ姿を多く見かけるようになりました。住民組織で公園緑地管理、遊具の清掃を行っています。

次代を担う子供たちが元気に遊ぶ姿を見て、健やかに成長して欲しいと嬉しく思います。村は子育て対策を地域は子どもたちを支えるところであります。

人間は晩年になると子供にかえると言われています。「老いて童の如く」一人の老童者(ろうどうしゃ)の感想です。

(佐野)

▼議会広報特別委員会(後期)

委員長 長谷川 耿 聰
副委員長 五十嵐 正 雄
委員 山 本 敬 介
委員 佐 野 一 紀

〈〈 議会広報や議事録全文は村ホームページでご覧になれます。〉〉

発行：占冠村議会 責任者・編集：議会広報特別委員会

〒079-2201 北海道勇払郡占冠村字中央 TEL 0167-56-2191 FAX 0167-56-2184 URL <http://www.vill.shimukappu.lg.jp>